

製品名: THP ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab18887**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ELISA 1:2000-1:20000
分子量	70kDa

抗原情報

遺伝子名	UMOD
別名	UMOD; Uromodulin; Tamm-Horsfall urinary glycoprotein; THP
遺伝子 ID	7369.0
SwissProt ID	P07911
免疫原	抗血清はヒト THP 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 329-378

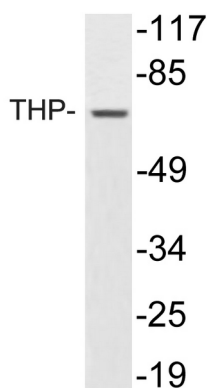
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、生理的条件下で哺乳類の尿中に最も多く存在するタンパク質です。ヘンレ係蹄の管腔細胞表面に位置するグリコシルホスファチジルイノシトールアンカー型タンパク質の細胞外ドメインがタンパク質分解によって切

断され、尿中に排泄されます。このタンパク質は、腎液中のカルシウム結晶化を恒常的に阻害すると考えられています。このタンパク質の尿中排泄は、尿路病原細菌による尿路感染症に対する防御機能を果たす可能性があります。この遺伝子の欠陥は、髄質嚢胞腎 2 型 (MCKD2)、高尿酸血症・等張尿症を伴う糸球体嚢胞腎 (GCKDHI)、および家族性若年性高尿酸血症性腎症 (FJHN) などの腎疾患と関連しています。この遺伝子の選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じます。 [RefSeq 提供、2013 年 7 月]、疾患: UMOD の欠陥は、高尿酸血症および等張尿を伴う糸球体嚢胞腎性腎疾患の原因となる [MIM:609886]。糸球体嚢胞腎性腎疾患 (GCKD) と髄質嚢胞腎性疾患 / 家族性若年性高尿酸血症性腎症 (MCKD/HNFJ) は、いくつかの共通の臨床的特徴を有する 2 つの異なる腎疾患である。前者は、ボーマン腔の嚢胞性拡張と糸球体房の虚脱を特徴とする。家族性 GCKD は、低形成腎または正常サイズの腎のいずれかと関連する可能性がある。GCKD の臨床的変異は、尿酸排泄率の低下と重度の尿濃縮能障害に起因する高尿酸血症を呈し、MCKD/HNFJ を彷彿とさせます。疾患: UMOD の欠陥は、家族性若年性高尿酸血症性腎症 (HNFJ) [MIM:162000] の原因です。HNFJ は、若年発症の高尿酸血症、多尿、進行性腎不全、痛風を特徴とする遺伝性の常染色体優性腎疾患です。この疾患は、線維化につながる間質の病理学的変化と関連しています。疾患: UMOD の欠陥は、髄質嚢胞腎 2 (MCKD2) [MIM:603860] の原因です。MCKD2 と HNFJ は、共通の伝播様式 (常染色体優性遺伝) と、多尿、高尿酸血症、進行性腎不全、痛風などの共通の症状を有する遺伝性腎疾患群です。両疾患とも、線維化につながる間質の病理学的変化を伴います。MCKD2 では皮髄嚢胞がよく報告されていますが、HNFJ ではその存在はあまり報告されていません。MCKD2 と HNFJ の主な臨床的特徴は、その存在と重症度が様々であるため、特に軽症の場合、診断を困難にします。両疾患ともアレレル疾患と考えられています。機能: 不明。IL-1、IL-2、TNF に高い親和性で結合するため、サイトカインの循環活性の調節に役割を果たす可能性があります。類似性: 1 つの ZP ドメインを含みます。類似性: 3 つの EGF 様ドメインを含みます。細胞内局在: 尿中に分解されて分泌されます。組織特異性: 腎臓で合成され、正常なヒトの尿中に最も多く含まれるタンパク質です。、

研究分野

画像データ



THP 抗体を使用した K562 細胞の溶解物のウエスタンブロット分析。